

# 平成 30 年度発掘調査速報展

## はじめに

発掘調査速報展は、弘前市教育委員会が平成9年度から毎年開催しているもので、今回が 22 回目となります。本速報展は、当市が実施した発掘調査の成果について紹介すると共に、遺跡の保護についてご理解とご協力を得られることを願い、開催しているものです。

今回は、平成 30 年度に実施した市内4遺跡の発掘調査から <sup>おおouraじょうあと</sup> 大浦城跡、<sup>てらさわ</sup> 寺沢（1）遺跡の2遺跡と、平成 28・29 年度に発掘調査を実施し、平成 30 年度に整理作業が終了した <sup>さかもとだて</sup> 坂本館を紹介します。

平成 31 年3月現在で当市の遺跡数は 456 か所を数えますが、未発見の遺跡がまだまだ多数存在していることと思われます。もし、みなさんの周りで土器や石器を発見したら、ぜひ文化財課までご連絡下さるよう、お願い申し上げます。

## 紹介遺跡の調査要項

遺跡名	所在地	主な時代	調査期間	調査面積	調査原因
大浦城跡	大字五代字早稲田	平安・中世	5月7日～5月14日	6㎡	個人住宅建築
寺沢（1）遺跡	大字清水富田字寺沢	平安・近世	5月23日～6月4日	75㎡	個人住宅建築
坂本館	大字館後字新田	縄文・平安・中世	平成 28・29 年度	2,480㎡	市道改築

## 大浦城跡

大浦城跡は、弘前駅から北西約6km、岩木山東南麓に所在し、岩木川の支流である <sup>うしろなが ねがわ</sup> 後長根川右岸の台地上に立地します。城跡の南側には、<sup>いわき やましんしゃ</sup> 岩木山神社へ通じる旧 <sup>ひやくざわかいどう</sup> 百沢街道が通っています。現況は <sup>つがる</sup> 津軽中学校、宅地及び畑です。

大浦城は、津軽地方を代表する中世城館の一つです。文亀2年（1502）、南部 <sup>なんぶ みつのぶ</sup> 光信により築城、嫡男・<sup>ちやくなん もりのぶ</sup> 盛信を置いたことが始まりとされ、その後は <sup>まさのぶ</sup> 政信、<sup>ためのり</sup> 為則と続き、永禄 10 年（1567）、<sup>ためのぶ</sup> 為信は当時の大浦城主である為則の婿養子として大浦城に入りました。なお、大浦城が今日みられるような形に整備・改修されたのは為信の代と考えられています。大浦城は築城以来、文禄3年（1594）に堀越城へ拠点を移すまでの約92年間、大浦氏の拠点として使用されました。



大浦城の構造については弘前市史編さん事業に伴い、縄張り調査が行われています。この調査によると、大浦城は、本丸・二の丸・三の丸・西の丸・西ノ <sup>くるわ</sup> 郭・南郭の6つの <sup>くるわ</sup> 曲輪から構成されると推定されています。

今回の調査対象区域は、二の丸南側に位置し、現況はりんご畑となっていました。

調査の結果、平安時代以降の <sup>せいかくふめいいこう</sup> 性格不明遺構 1基・ピット9基、中世以降の <sup>どこう</sup> 土坑 1基・溝跡 1条・ピット5基を検出しました。遺物は平安時代の土器である <sup>はじき</sup> 土師器・<sup>すえき</sup> 須恵器のほか、<sup>はぐち</sup> 羽口、中国の <sup>みん</sup> 明の時代の

銭貨である「こうぶつうほう洪武通宝」が出土しました。

## 寺沢（1）遺跡

寺沢（1）遺跡は、弘前駅から西約4km、白神山地から津軽平野へと延びる台地が北東へ舌状に張り出した丘陵のほぼ中央に位置しています。当遺跡は二つの小丘に挟まれた標高66～70m前後の北東及び南西傾斜地に立地し、現況はりんご畑となっています。



当地付近は、弘前城築城期には「石森」と呼ばれており、石垣に使用する石材を切り出した地域と推定されています。享保16年（1731）成立の『津軽一統志』の慶長15・16年条には、「一、御石垣ノ石、長勝寺西南石森ト云所ヨリ出ル、今ハ無之」との記述があります。

今回の調査では、明確な近世以前の遺構は検出されなかったものの、<sup>やあな</sup>矢穴のある石材が出土しました。矢穴とは、石を割るためにあける穴であり、この穴に矢（くさび）を打ち込むことで石を割ります。出土した石材には3辺に合計4か所の矢穴がみられます。

## 坂本館

坂本館は、弘前市街地から南西へ約10kmの<sup>ひがしめや</sup>東目屋地区に位置しており、中世の城館として遺跡登録されています。岩木川の支流である<sup>くらすけがわ</sup>蔵助川左岸の<sup>か がんたんきゅう</sup>河岸段丘上に立地し、標高は82～98mです。市道整備に伴い、平成28・29年度に発掘調査を実施し、平成30年度に発掘調査報告書を刊行しました。



2か年の発掘調査により、縄文時代の<sup>たてあなたてものあと</sup>竪穴建物跡2軒、<sup>どこう</sup>土坑87基、<sup>どきまいせついこう</sup>土器埋設遺構2基、<sup>すば</sup>捨て場1面、<sup>はいせきいこう</sup>配石遺構1基、平安時代の竪穴建物跡2軒、土坑1基、平安時代以降の<sup>みぞあと</sup>溝跡2条、<sup>うねじょういこう</sup>畝状遺構（畑の跡）6面などの遺構が検出され、遺物は縄文土器、石器、土師器、陶磁器、鉄製品、古銭などが出土しました。

縄文時代の土坑87基の内、39基は、断面形が理科の実験器具の三角フラスコの形状になる、フラスコ状土坑と呼ばれる土坑でした。土坑の内部からは、完形に復元可能な縄文土器が多数出土しました。また、配石遺構は、<sup>かんしゃめん</sup>緩斜面上に、<sup>かわらいし</sup>平滑な川原石がおおよそ直線状に配置された状態で確認されました。

溝跡2条の内、第2号溝跡は、遺跡南西端の丘陵端部を巡るように構築されており、確認された規模は、幅約4m、深さ約1.8m、延長約54mです。一部途切れて<sup>とぼし</sup>土橋状になる箇所があり、出入口として機能していた可能性が考えられます。

坂本館では、縄文時代・平安時代にムラが営まれていたことが調査により分かりました。また、中世や近世の遺物も出土しており、遺跡周辺では、古くから生活が連続と営まれていたことが分かりました。

\*\*\*\*\*

【展示に関するお問い合わせ先】

弘前市教育委員会 文化財課埋蔵文化財係（岩木庁舎3階）

〒036 - 1393 弘前市大字賀田一丁目 1 - 1 TEL 0172 - 82 - 1642 (直通)